

第2回 多治見市総合計画市民委員会 議事要旨

期 日：平成23年6月10日(金)

時 間：18:00～19:30

場 所：市役所4階会議室

出席者：別表のとおり

議事

(1) 第1回市民委員会議事要旨を確認

【委員意見】

- ・前回の委員会で出された「子どもの頃にたくさんの大人に関わってもらい、大事にされた経験を持っている子どもは、多治見に帰ってきたくなる。」という意見は素敵だ言葉だと思う。

(2) 基本構想見直しポイント（前回の委員意見等に基づく基本構想の修正案）について説明

【委員意見】

- ・見直された表現から、基本構想が丁寧に練られていると感じた。
- ・「人」は財産であることを再認識する点が新しいポイントであり、前回の意見を踏まえて設定されている。
- ・「人財育成」という言葉は、10年以上前から企業では常識化しているが、自治体で当該用語を使用するのは初の事例ではないか。人を大切にするという姿勢が全面に出てよい。
- ・「人財育成」が追加されたことにより、市がハード面ではなく、人に優しくしてくれる印象を与えるようになった。具体的な形になることを期待する。
- ・企業に対する育成と呼べるシステムもあり、「人財育成」を見直しのポイントとしていることは評価できる。
- ・陶磁器意匠研究所等、若者が多治見市に住んでくれるよう育てることに力を入れることは良い方向だと思う。
- ・企業のマーケティングにおいては、性別と年齢をクロスさせるのが通常。自治体としてはファミリーや子どもの視点も含めることが必要ではないか。

(3) 「人財育成」について

【委員意見】

- ・企業では、誰に、どのような専門性を身に付けさせるかが「人財育成」の鍵となる。その場合、議論の入り口となるのは、スキルアップした社員がどの分野に何人必要となるのかという「人財」のポートフォリオ（分散投資の組み合わせ）である。企業の手法が参考になるのではないか。
- ・今後、市の高齢化率は増加することが推計されているが、潜在的に知識のある方が市には多い。第二の人生を、子育て支援や商店街活性化等に活かしていただく方策を考えてはどうか。
- ・「人財育成」のためには、子どものころからの教育が重要であり、「親育ち4・3・6・3たじみプラン」のような取り組みを大事にしたい。
- ・中学校の部活動等、以前と比較して上下関係が厳しくなくなっている。縦社会については賛否両論あり弊害もあるかもしれないが、目上を敬い、上が下へ教え、伝えていくということについては、学校が最初に学ぶ場ではないか。指導者やスポーツ等の専門分野での育成等、具体的な取り組みを検討してはどうか。
- ・研修を通して精神的な成熟を図る「人財育成」は難しい。異業種交換や民間企業からの中途採用

- 者の活用によって、行政と民間の経験との融合を図ることが必要ではないか。
- ・子どもたちに多治見を好きになってもらうには、農業や作陶等、自分たちの目で見、体験してもらうことが大切ではないか。難しい話をすると子どもたちは興味がなくなってしまう。
 - ・子どもたちに働きかけられる側を育成することも必要ではないか。
 - ・市の伝統文化を再発見することもよいのではないか。
 - ・「人財育成」と聞くと専門家を育てる意味合いであると想像しやすいが、大前提となるのは郷土心や愛着心が根底となること。
 - ・今の子どもは何のために進学するのか、将来像が見えない。しかし「幸せな人生を送りたい」とは考えている。そのためには社会で必要な人間になる、つまり自分がいないと社会がまわらないようになることが必要であり、専門性を高めるとともに人間性を高めることが必要。
 - ・人として社会を生きていくためにはスキルよりも人間性を育てることが大切。そのためには子どもを育てる親を教育することも必要ではないか。
 - ・多治見を好きになるということは人とのつながりと同義ではないか。子どもに声をかけてもらい、母親といっしょに子どもの成長を喜んでもらえる地域にすることが一番大事ではないか。
 - ・「人財育成」はすぐにできるものではなく数字で計ることができない。何らかの形で成果を評価しながら大事にしていきたい。
 - ・人と人とのつながりを良くするためには、教育や研修等、何らかの手立てによって指導できる人を育てることが必要ではないか。
 - ・教育や指導ではなく、「ともに歩む」という視点があってもよいのではないか。
 - ・「人財育成」には地域連携が必要ではないかと思う。一人では市をどうしようとは考えにくい。市内の雇用を創出すれば、地域とのつながりも生まれる。
 - ・企業にとって、突出したスキルを持つ「人財」は重宝するが、人付き合いが苦手だとマイナスになる。一番大事なのは人と人がうまく付き合ってくれることだと思う。
 - ・地域の文化継承やNPOの立ち上げ等、地域の課題に立ち向かう若手は全国にたくさんいるが、多治見市内にも伝統技術や文化の継承等、課題に立ち向かう方がいる。子どもたちにも、課題にチャレンジできる場を用意し、多治見市ならではの経験ができればプラスになるのではないか。
 - ・「人財育成」においてはリーダーの育成も重要ではないか。地域の中で活躍する専門家を中心に集まる若者を巻き込み、まとめていただく存在を育成するべき。
 - ・地域の子どもの公民館で活動することが多いが、多治見市の公民館は特に活動が盛んであると思う。ただし活動しているのは子どもと高齢者が中心で、その中間層が少ない。
 - ・伝統文化や文化財の保存のため、文化振興事業団との連携を緊密にするとよいのではないか。

(4) 基本計画事業について

【委員意見】

- ・基本計画事業の表現が抽象的ではないか。→次回委員会にて代表的な事業を説明する。
- ・通院医療費の無料化等については、周囲の方に聞いても要望が多い。
- ・限られた予算の中で少しでもやれることを増やすには歳入を増やすための施策を進めることも必要ではないか。産業観光も推進すべきだが、リニアの関連施設を誘致できないか。
- ・市は全てのものに目配りをする必要があり、弱者切捨ての事業となっていないことはすばらしいと思う。
- ・市としての優先順位が明確ではない。事業に優先順位を付けることは難しいかもしれないが、各政策分野の中の最重要課題を設定してはどうか。

6 今後の日程について

第3回委員会

日時：7/13(水) 18:00～(2時間程度)

場所：市役所

【別表】出席者名簿

	出欠	氏名	所属	備考
委員	○	牛田 拓造	株式会社共栄電気炉製作所	代表取締役
	○	大村 浩司	社団法人 多治見青年会議所	理事長
	○	小口 英二	多治見まちづくり株式会社	事業課長
	○	木下 貴子	多治見ききょう法律事務所	弁護士
	○	田尻 宣子	公募委員	
	○	中澤 香代	多治見市 PTA 連合会	母親委員長
	○	中津 道憲	中部大学 研究支援センター	教授
	○	野田 幸子	NPO 法人在宅支援グループ みんなの手	前代表
	○	原田 陽介	公募委員	
	○	平林 史孝	環境フェア実行委員会	委員長
	○	堀尾 憲慈	連合岐阜東濃地域協議会	議長
	○	牧野 民賀	NPO 法人まあーる	理事
	○	水野 隆吾	みずほ不動産鑑定事務所	不動産鑑定士
	事務局	○	青山 崇	企画部
○		吉村 健一	企画防災課	課長
○		桜井 康久	企画防災課	リーダー
○		岡安 秀明	企画防災課	
○		加藤 泰治	企画防災課6次総グループ	リーダー
○		横田 真己	企画防災課6次総グループ	
○		皆元 健一	企画防災課6次総グループ	
○		内山 祐介	企画防災課6次総グループ	
○		松尾 彰久	企画防災課6次総グループ	
○		富士 友紀乃	企画防災課6次総グループ	